

取組1年生 歩み始めた一歩を振り返る



社会福祉法人 いわき福祉会
地域密着型特別養護老人ホーム
プロムナードとばた

施設概要

- ・種別 地域密着型特別養護老人ホーム
- ・入居定員 29名 平均介護度 3.65
- ・介護職員 20名 内、腰痛保持者 19名
- ・併設事業所 認知症対応型共同生活介護 定員18名
障がい福祉サービス事業所（多機能型） 定員50名
- ・他 消防団協力事業所 令和6年3月 総務省消防庁長官表彰
介護の北九州モデル 令和6年6月 市長定例会見に同席
北九州市介護助手活用モデル実証事業 令和6年10～12月

ノーリフティングケア導入のきっかけ

- 1 腰痛職員が増加し、何度か施設での取り組みをしたが、効果が出なかった
- 2 職員の腰痛だけではなく、入居者の皮下出血や剥離、拘縮も減らせるのではないかと
- 3 先輩施設が活動している地域連絡協議会の活動に参加し、仲間になりたいと取り組みを決意

【あつまろう筑豊！ノーリフティングケアフォーラム】や、北九州地域連絡協議会活動に参加し、施設見学や技術研修会を体験



福岡県ノーリフティングケア普及促進事業に応募

ノーリフティングケア委員会を結成



役割

統括 : 施設長
プランニング : 介護支援専門員
健康管理 : 看護師
福祉用具管理 : 介護主任
教育担当 : ホーム長
ユニットリーダー

ノーリフティングケア宣言

第1段階 リスクの抽出とアンケート結果

アンケート



身体的につらいと
感じる業務

移乗時の腰にかかる負担 9件
入浴介助 7件
オムツ交換 3件

危険に感じる業務

拘縮のある方の移乗介助 9件
バスタオル移乗時のタイミング 7件
移乗時にフットレストがあたる 7件

リスクを
抽出

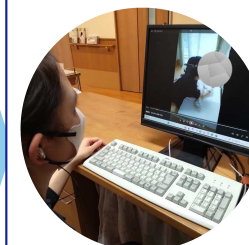
他、抱え上げた方が早いと感じる職員が多く、そもそも
介助方法が職員間で統一されていないとの課題が明確に

実技指導の周知

研修計画立案

研修計画（11月実施予定）		11月実施予定	
研修項目	研修内容	研修日時	研修場所
1. 基礎知識	介護職員 基礎知識	11/10	研修室
2. 実践スキル	介護職員 実践スキル	11/10	研修室
3. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
4. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
5. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
6. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
7. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
8. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
9. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
10. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
11. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室
12. 応用スキル	介護職員 応用スキル	11/10	研修室

事前に
動画で確認



作業療法士や
実技研修担当者
から直接指導



課題

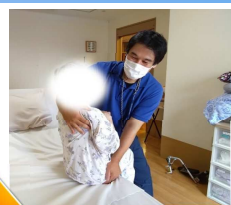
他の取り組みとのスケジュール調整が困難を極める
→ 委員会での検討のもと現場の実践教育に絞る

起き上がりとスライディングボード



BEFORE

身体全体に力が入り、お互い
の負担も大きい



AFTER

身体力が緩み、入居者、
職員ともに負担も軽減

既にあった全床電動ベッドの機能や
スライディングボードの活用が進む

ノーリフティングケアの効果

効果1

負担のない
起き上がり

起き上がり方法が
電動ベッドの
ギャッジアップを
効果的に使用し
職員・入居者とも
お互いに負担の
ないようになっ
ている

効果2

スライディング
ボード移乗の浸透

研修前から持って
いたが使用して
いなかった。
作業療法士や
技術担当から指導
を受けて今では
全員が使用できる

効果3

意識付けの浸透

ベッドのリモコン
の位置や高さ
に変化がみられて
いて、移乗や
排泄介助の際に
腰痛への意識付け
ができています

効果4

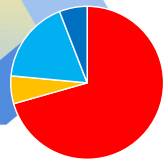
跳ね上げ車いすで
負担軽減

車いすも少しずつ
跳ね上げ式タイプ
が導入されて負担
軽減につながって
いる

マネジメントや実技研修が現場に伝達・周知され、
実践→意識付→新たな用具の導入ができるようになってきた

抱え上げ、腰痛 調査の結果

6月調査

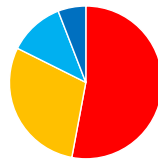


常に抱え上げ 70.5%

常に抱え上げ

17.6% 減少

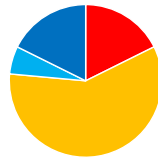
12月調査



常に抱え上げ 52.9%

常に痛い

5.6% 増加



常に痛い 17.6%

常に抱え上げは減ったが、常に腰痛が増加 →
経年疲労や業務外の要因まで含めて個別調査中

定着への課題

課題 1

分析不足
(マネジメント)

職員の腰痛の原因、入居者の
皮下出血、剥離、拘縮の
前後比較が出来ていない

実技指導が全体に行き渡らず、
介助方法が統一されていない

介助方法の統一
(実技指導)

課題 2

課題 3

リスクの抽出を継続する仕組み
(リスクマネジメント)

現場から出た意見の改善が
進まず、新たなリスクの
抽出が止まっている

複数のプロジェクトを同時に
積み上げていく管理が必要

継続性
(マネジメント)

課題 4

結果にめげずに2年目にチャレンジ

プロムナードとばたの強みや特徴



- 1 法人内施設との連携や
関係施設、施設長、
現場職員間の意見交換
- 2 全床電動ベッドや
スライディングボードなど
過去の取り組み経過もあり
- 3 これまで北九州モデル等
を通して培った改善力が
あり、新しいことにも
挑戦できる土壌がある

施設全体で取り組める

ノーリフティングケア2年目に向けて

1STEP

職員の腰痛の原因、
入居者の皮下出血、
剥離、拘縮の前後比較
など分析をやり直す

2STEP

分析とリスクの芽
から優先度の高い
場面の技術習得と
福祉用具を整備

3STEP

「常に抱え上げ」
「常に腰痛」
の減少と要因の
分析を継続する

プロムナードとばたの強みや特徴を生かしつつ、
分析や継続性を高め、着実な成果につなげていく